

# 目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長

上田市長 平尾 哲 男

東京大学名誉教授・前国立歴史民俗博物館長 石井 進

## 第一章 衣生活

第一節 野良着…………… 3

一 男性の野良着…………… 4

上衣 下衣 かぶりものと履物

二 女性の野良着…………… 6

上衣 下衣

三 手甲…………… 7

男性の手甲 女性の手甲

四 かぶりもの…………… 8

菅笠 麦藁帽子に手ぬぐい 野良仕事と手ぬぐい アネサンカブリ

第二節 晴れ着

一 赤子の晴れ着

産着 お宮参りに着るもの

二 年祝いの着物

七五三の祝い 成人式 賀寿の祝い

三 嫁入りの支度

嫁入り支度とかぶりもの 戦時中の結婚式 花嫁の支度と招待客の服装

四 葬式の支度

喪服 葬式のかぶりもの 棺付きの人の履物

第三節 履物と脚支度

一 草鞋

草鞋と甲かけ

二 草履

日常生活の草履

三 はばき

四 藁沓

味噌つくりと藁沓

五 かんじき

六 下駄

高級品からふだん履まで

七 足袋

第四節 布地……………22

一 機織り……………22

木綿織 紬織 機織り機

二 染色と保存……………23

草木染 衣類の保存

三 裁縫と洗濯……………24

縫い物と繕い物 たらいで洗濯 和服の洗い張り

## 第二章 食生活

第一節 食料……………29

一 主食料……………29

米飯 麦飯 混ぜご飯 米不足の備え

二 副食料……………32

魚介類 山菜や野草 昆虫や野生動物 野生のものよさ 土地独特の食べ物

第二節 貯蔵……………36

一 穀類……………36

米の貯蔵法 米以外の穀類の貯蔵

二 野菜……………37

野菜の保存方法 漬物 野沢菜漬

第三節 加工食品	40
甘酒の思い出	.....
納豆の効能	.....
豆腐づくり	.....
凍らせた食べもの	.....
第四節 調味料	42
一 味噌	42
原料の割合	.....
塩の割合	.....
仕込み量	.....
味噌の仕込み方	.....
悪くしないためには	.....
使い始めはいつから	.....
二 醤油	45
仕込み方	.....
三 塩	46
塩の種類	.....
塩の使いみち	.....
四 甘味料	47
甘味料として使ったもの	.....
白砂糖	.....
五 香辛料	48
自給で使った香辛料	.....
六 出し汁	48
第五節 食品	49
一 粉食	49
煮て食べる	.....
ゆでるもの	.....
焼くもの	.....
むす・ふかすもの	.....
炒るもの	.....
二 間食	51
田植えのとき	.....
取り入れのとき	.....
山仕事のとき	.....

三 特別な日の食べ物……………52

年取り魚 正月三日の食べ物 婚礼につきものの食べ物 不幸のときの食べ物

餅・団子・赤飯を作るとき こだわりの食事

第六節 食制……………55

一 食事のとき……………55

食事の場所 家族の座席の順序 食べ物を取りまわす順序

二 食事の作法……………56

主に躰けた人 躰けられたこと 初物を食べるとき

三 神棚への供え物……………57

ふだんの供え物 特別なとき

四 仏壇への供え物……………58

ふだんの供え物 特別な日の供え物 供え物の後始末

五 食べ合わせ……………59

六 日による禁忌……………60

種を蒔くとき 初物を収穫するとき 味噌を仕込むとき 味噌の口を開けるとき

年の暮の餅搗き 日常生活の中での禁忌

第七節 食具と飲み水……………64

一 食器と調理器具……………64

ふだん使う食器 箱膳と食卓 調理器具の昔と今 食品をすりつぶす道具

粉をこねる道具 食料を炒る道具

二 飲み水……………66

## 第三章 住生活

飲み水の確保 水道はいつから使われたか

### 第一節 屋敷……………72

一 屋敷の選定……………72

好ましい屋敷地 避けたい屋敷地

二 屋敷の入口と庭……………73

ケダシ 庭(露地)

三 前栽畑……………74

四 庭に植える木、植えない木……………74

植えてよい木 植えられない木

### 第二節 屋敷内の建物……………76

一 土蔵……………76

土蔵の役割り 土蔵のつくり マチの土蔵

二 物置(納屋)……………78

### 第三節 母屋……………79

一 母屋の呼び名と間取り……………79

母屋の広さ 間取り 座敷と茶の間

二 屋根……………80

茅葺き	板葺き	瓦葺き	トタン葺き	83		
三 母屋への入口と土間	母屋への入口	土間		83		
四 勝手と囲炉裏	勝手	囲炉裏		84		
五 かまど	かまど			85		
六 茶の間・座敷・寝間	茶の間	座敷	寝間	セイジの間	店	86
七 蚕室	蚕室	居間も蚕室に	二階の蚕室	蚕室の変化	87	
八 馬屋				89		
九 風呂	セイフロ(据え風呂)	もらい風呂		90		
十 便所	外便所	便所の位置		91		
第四節 水と明かり				93		
一 水	清水	井戸水	上水道	93		
二 明かり	行灯やランプ	電灯		95		
三 発火具				96		

火打ち石	マッチとつけ木	
四 焚き物	松葉・薪	97
五 炭	消し炭	
	堅炭	
	こたつの火	98
第五節 建築儀礼		99
一 母屋の向き		99
	部屋割り	
二 地鎮祭		99
三 ドウツキ(地づき)	ドウツキのようす	100
	ドウツキ唄	
四 建て前と棟上げ式	建て前の日	102
	建て前の手伝い	
	棟上げ祝い	
五 家移り	引っ越し	103
	新築祝い	
六 家が長続きするように	願いをこめて	104

# 第四章 生産・生業

## 第一節 稲作……………109

一 種籾取り……………111

種籾取り 脱穀と保存

二 苗作り……………112

苗代と苗取り

三 田起こしと代かき……………113

田起こし 踏み込み 代かき

四 田植え……………114

田植え

五 用水・水利……………116

池と堰 水利役 代かき前の水入れ 夜水・役水・通し水 大水・豪雨 雨乞い

六 田の草取り……………120

田の草取り 雀追い

七 稲刈り・脱穀……………121

稲刈り 脱穀

八 籾すり・精米……………123

籾すり 精米

## 第二節 田の裏作と畑作

## 一 麦作

裏作がなされた水田 裏作として作った作物 田麦作り 畑麦 麦の脱穀

## 二 畑作物

戦前の畑作物 戦時中の畑作物 野菜 たばこ 薬用人参 花卉 ホップ

## 第三節 養蚕

## 一 蚕の一生

蚕種から繭まで 種屋の蚕

## 二 蚕種

蚕種の買入先 蚕種の保存

## 三 蚕の飼育

蚕の飼育全般 掃き立て 稚蚕共同飼育所 三齢から庭おき 上簇 繭かき 蚕影さま

## 四 繭の販売

繭の販売先 二番繭

## 五 蚕種業

蚕種業者数 蚕種用蚕の飼育 鑑別 分場 種付け 蚕種の保存 蚕種の販売

出殻繭

## 六 桑畑

桑畑の手入れ 桑畑の昨今

## 七 蚕手伝い

蚕手伝い 種屋での手伝い

八 蒨繭の利用……………142

真綿・紬 糸取り・機織り

第四節 果樹・家畜……………143

一 果樹……………143

りんご ぶどう 梨・桃 柿・梅・くるみ

二 家畜……………146

馬 役牛 乳牛 山羊・綿羊 豚 鶏・うさぎ

第五節 山や冬の仕事……………149

一 炭焼き……………150

白炭 黒炭 消し炭

二 薪取り……………152

薪とポヤ サデさらい

三 冬の仕事……………153

藁細工 竹細工 凍み豆腐 縫い物 串柿作り 土木作業 漁業

第六節 手工業……………156

一 瓦屋……………156

粘土とり 瓦ができるまで 屋根ふきと販売 職人 新しい瓦

二 畳屋……………160

藁の確保 畳床づくり 畳表 畳の縁 畳表取り付け材料 畳つくりの道具  
手当て 畳の敷き方 畳の表替え

三	桶屋……………	164
	桶のいろいろ	
	桶の材料	
	桶ができるまで	
	桶づくりの道具	
	お客の範囲	
	桶と生活	
四	染物屋……………	167
	反物	
	染め上がりまで	
	染物屋と下職	
	染色業の移り変わり	
五	紋屋……………	170
	修業のとき	
	紋のいろいろ	
	仕事の手順	
	道具	
	新しい感覚	
六	鍛冶屋……………	172
	造ったもの	
	鎌造り	
	仕事場と道具	
	鍛冶屋の生活	
第七節	商業……………	176
一	ムラの店……………	176
二	マチの店……………	177
三	ムラとマチの結びつき……………	178
	上田のえびす講	
四	商店のようす……………	179
(1)	綿・綿糸・反物……………	179
	店構え	
	売り方	
	初荷	
	丸源のえびす講	
	出張販売	
	商品の運搬	
(2)	洋服屋……………	181
	店の移り変わり	
	紳士服の規格	
	洋服の流行	
	客の範囲	
(3)	魚屋……………	183
	店のようす	
	売れた魚	
	仕入れ先	
	仕入れ方法	
	商い	
	包丁	
	魚商組合	
(4)	菓子屋……………	187
	一こ五円の和菓子	
	菓子の季節感	
	引き出物	
	もなか(最中)	
	技術の伝承	

(5)	金物屋	189
	仕入れ先	
	お客と売り出し	
	商店街の近代化	
(6)	荒物屋	191
	塩の販売	
	荒物	
	麴	
	十銭ストアー	
	日用品雑貨	
	荒物屋のえびす講	

## 第五章 交通・交易

第一節	交通	198
-----	----	-----

一	道	198
---	---	-----

道のいろいろな呼称 樗の下の大六の道 別所北向観音と温泉への道 分岐点と道標

二	田畑への道	201
---	-------	-----

赤線は耕作の道 道普請はムラ人の手で

三	旅	202
---	---	-----

講における代参

第二節	通信	204
-----	----	-----

一	口頭での連絡	204
---	--------	-----

触れ 告げ 有線放送 スピーカー（拡声器）

二	文書での連絡	205
---	--------	-----

掲示場（昔は高札場） 回覧板 ちらし広告

三	音響での連絡	205
---	--------	-----

口笛 拍子木 太鼓に鐘・振鈴 花火 サイレン

第三節 運搬

一 人の力で運ぶ

背負子で運ぶ  
 マタッポ（イキツエ）を使う  
 休み石でひと休み  
 便利な朝鮮背負子

207

担いで運ぶ

二 畜力で運ぶ

荷馬  
 畜力で耕し物を運ぶ

209

第四節 交易

一行商

小間物屋と富山の薬屋  
 季節による行商  
 付け木と蚕種

211

二 仲買い

三 勘定と取引

213

執筆分担

表紙絵・挿絵

資料提供協力者

あとがき

参考文献

上田市誌の編さん組織

表紙絵 囲炉裏いろりを囲んで

裏表紙絵 (浦里 岡) 繭かき 矢崎重信氏画『信濃の子供』から

(昭和十八年 上田市立塩尻小学校蔵)